



科学の眼

まなこ

発行:姫路科学館 (〒671-2222 姫路市青山 1470-15 電話:079-267-3961)

<https://www.city.himeji.lg.jp/atom/>

生物シリーズ

いろいろな形には訳がある

鳥のくちばし

姫路科学館 専門員 森田 俊司

鳥には翼があり、羽ばたくことによって空を飛ぶことができます。また、2本の足は歩いたり、木の枝につかまったりします。さらにカモやカモメなど水鳥の足には水かきがあり、泳ぐのに大変役に立っています。それでは、くちばしはどのような働きをするのでしょうか。

くちばしは骨でできており、その表面は角質（ケラチン）で覆われています。ちょうど人間の爪のような成分のもので。

ちなみに鳥には歯がありません。食べ物は飲み込んで、体内にある強力な砂嚢（さのう）を使って播（す）り潰します。焼き鳥の「砂ずり」といわれている部分に当たります。

鳥は巣を作り、子育てをしますが、その一連の行動にくちばしが重要な役割を果たしています。巣材を集めること（写真1）、巣を作ること、ヒナに食べ物を与えること、すべてくちばしを使って行います。そのほかキツツキの仲間にくちばしを使って木に穴を開けて巣を作ります。また、コウノトリは求愛行動などを行うときに、声の代わりにくちばしをカスタネットのように激しく打ち鳴らして音を出します（クラッターリング）。このようにくちばしはいろいろな働きをします。しかし、その中でもやはり基本は食べ物を捕らえることです。食べる物によってさまざまなくちばしの形状が見られます。今回はいろいろな形のくちばしを持つ鳥たちを紹介します。



写真1 巣材をくわえたスズメ

■長いくちばし

サギの仲間は長いくちばしを持っています。水辺で魚やエビ、カエルなどの小動物に狙いをつけて一瞬で捕らえます（写真2）。一般にカワセミやカワウなど魚を捕らえる鳥は体と比較するとくちばしが長いです。ヒヨドリやメジロも長いくちばしをしていますが、花の蜜を吸うのに適しています。サクラの蜜が大好きなヒヨドリの顔をよく見ると、花粉をたくさんつけていることがあります（写真3）。植物にとっては受粉に役立っているようです。



写真2 魚を捕らえたコサギ

■太いくちばし

イカル（写真4）は太い立派なくちばしの特徴です。他の鳥では手に負えない堅い実（ムクノキ、エノキなど）を、強力なくちばしで回しながらかみ砕いて中身を食べます。その様子から「まめまわし」という地方もあります。しかし、はさまれたら痛そうですね。



写真3 くちばしに花粉をつけたヒヨドリ

■変わった形のくちばし

干潟にすむシギの仲間には、上に反ったもの（ソリハシシギ 写真5）や下に湾曲したもの（チュウシャクシギ 写真6）など独特なくちばしをしているものがたくさんいます。カニやゴカイ、貝など捕らえる食べ物によって進化したものです。



写真4 太くて立派なくちばしのイカル

■鳥を見に行こう

くちばしの形が分かりやすいのは、水辺で生活する鳥。サギやシギなどは開けた場所で食べ物を捕るので観察しやすいです。

鳥を見つけたら、くちばしの形状をみて、どんなものを食べているのか、想像してみるのも楽しいですよ。



写真5 くちばしが上に反ったソリハシシギ



写真6 くちばしが下に湾曲したチュウシャクシギ